広げよう！おたがいさま
～たすけ合い・ささえ合い・おらほの宝～
社会福祉法人　登米市社会福祉協議会

登米市の位置

平成17年4月に旧登米郡8町と本吉郡津山町の9町が合併し、登米市が誕生。

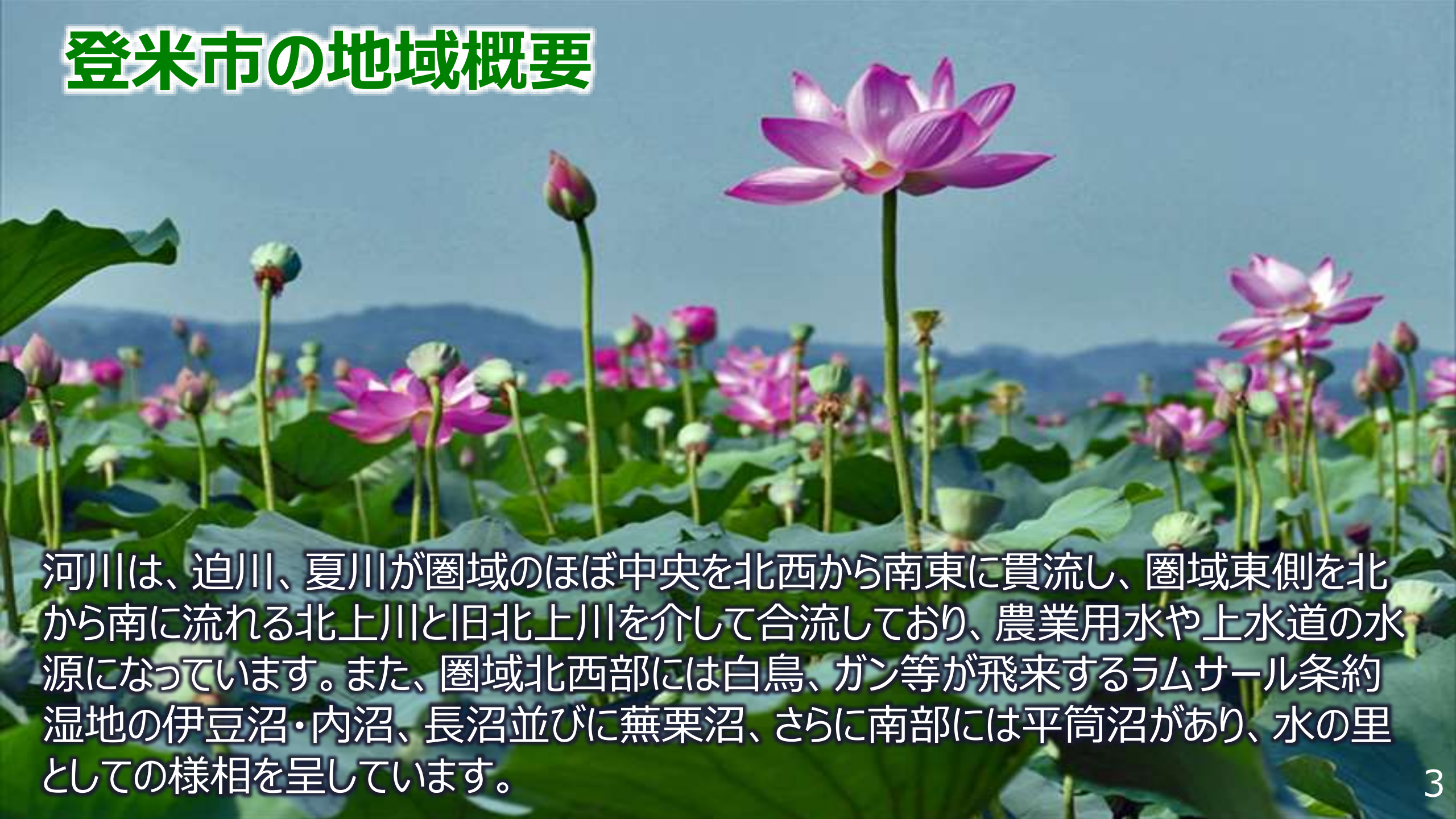
位置は、宮城県の北東部に位置し、北は岩手県に、西は栗原市に、南は石巻市及び遠田郡に、東は南三陸町に接し、登米市の面積は536.12㎢で、県全体の7.36%を占めています。圏域の中心である迫町と周辺主要都市との直線距離は、仙台市まで70km、大崎市古川まで25km、石巻市まで30km、一関市まで30kmです。

ちなみに…横手市十文字町までは最短距離で110kmです。

登米市の地域概要

地勢は、西部が丘陵地帯、東北部が山間地帯で、その間は広大で平坦肥沃な登米耕土を形成、県内有数の穀倉地帯となっており、宮城米「ササニシキ、ひとめぼれ」の主産地として有名な地域です。

登米市の地域概要



河川は、迫川、夏川が圏域のほぼ中央を北西から南東に貫流し、圏域東側を北から南に流れる北上川と旧北上川を介して合流しており、農業用水や上水道の水源になっています。また、圏域北西部には白鳥、ガン等が飛来するラムサール条約湿地の伊豆沼・内沼、長沼並びに蕪栗沼、さらに南部には平筒沼があり、水の里としての様相を呈しています。

登米市の観光

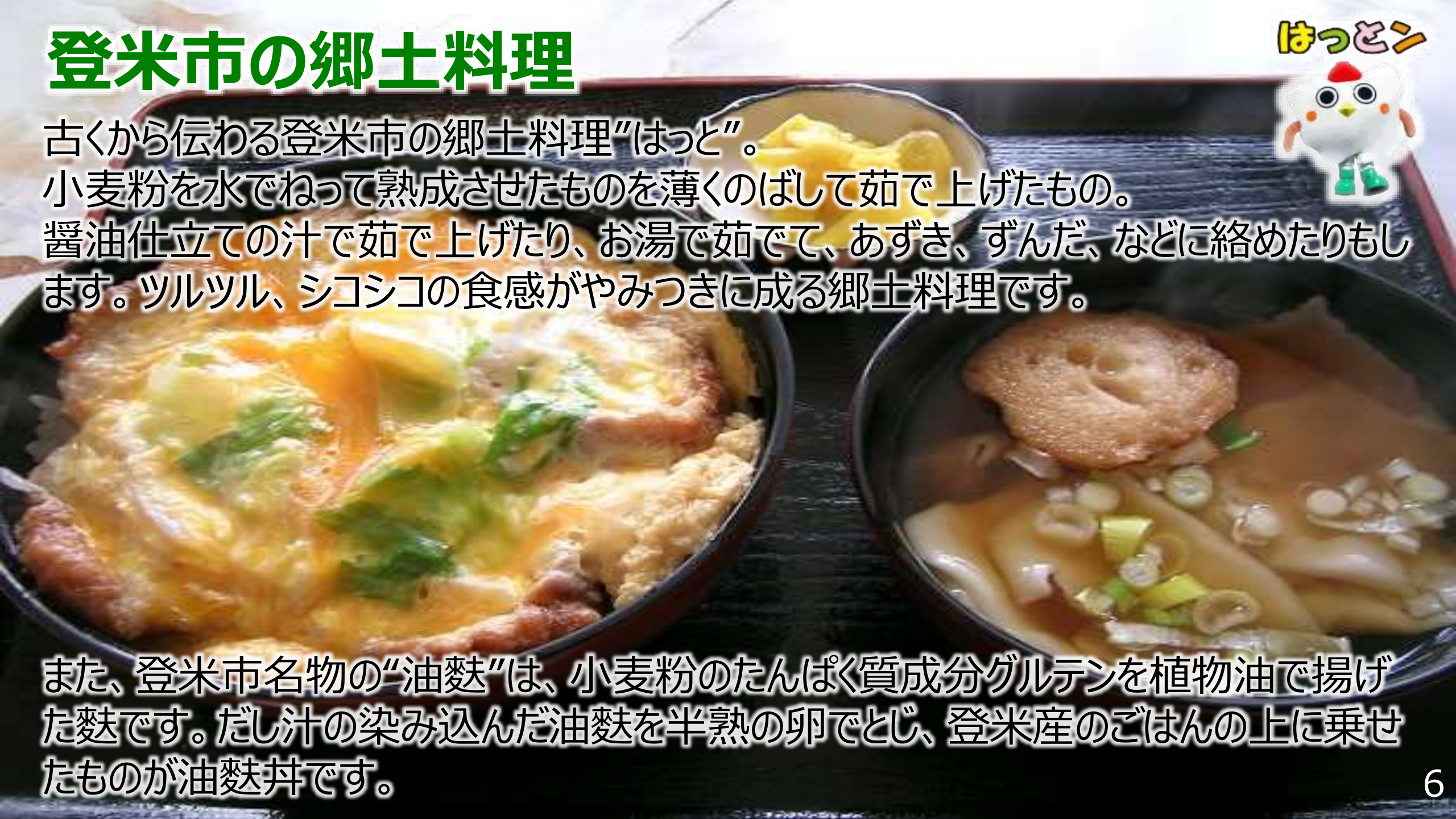
登米（とよま）町には、明治時代に建造された小学校、県庁、警察署などのハイカラな洋風建築物が残り、当時の面影を今に伝えています。
また重厚な蔵造りの商家や鉤型小路、藩政時代の武家屋敷や史跡など、江戸や明治を思わせる建物も数多く現存しており、その町並みから「みやぎの明治村」と呼ばれ親しまれています。

登米市の観光

登米市中田町石森は、仮面ライダー、サイボーグ009、秘密戦隊ゴレンジャーなどを生み出した「石ノ森章太郎」の出身地です。2000年に石ノ森章太郎ふるさと記念館がオープンし、生家も展示されています。

登米市の郷土料理

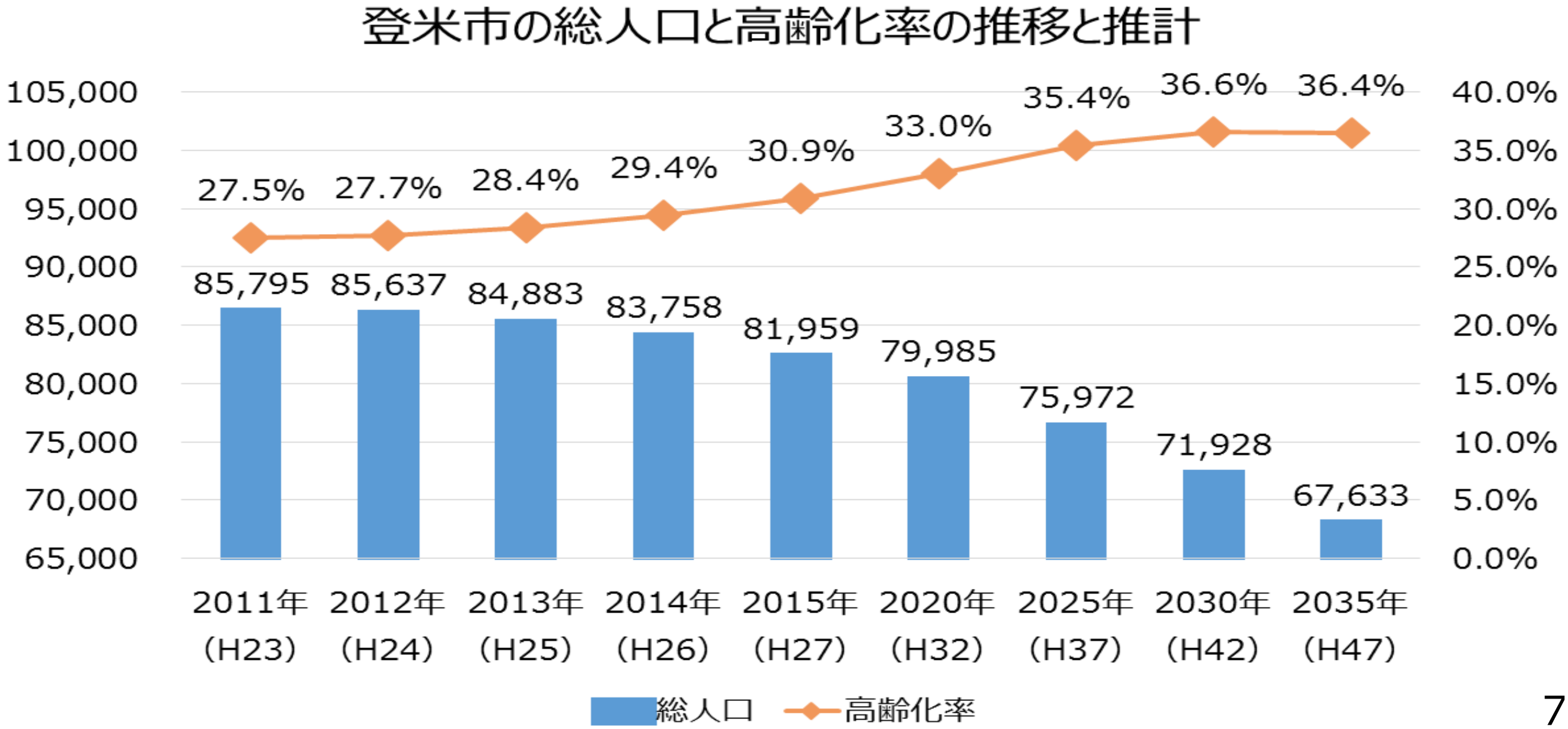
古くから伝わる登米市の郷土料理“はっと”。
小麦粉を水でねって熟成させたものを薄くのばして茹で上げたもの。
醤油仕立ての汁で茹で上げたり、お湯で茹でて、あずき、ずんだ、などに絡めたりもします。ツルツル、シコシコの食感がやみつきに成る郷土料理です。



また、登米市名物の“油麸”は、小麦粉のたんぱく質成分グルテンを植物油で揚げた麸です。だし汁の染み込んだ油麸を半熟の卵でとじ、登米産のごはんの上に乗せたものが油麸丼です。

登米市の人口統計

2017年（平成29年）8月末
人口：81,318人　世帯数：27,311世帯（合併時：26,191世帯）



登米市社協【基本理念】

一人ひとりの力を合わせ、
みんなの幸せのために

共に支え合い、
誰もが安心して暮らせる街づくり

登米市生活支援体制整備事業
～活動紹介～

生活支援体制整備事業とは？

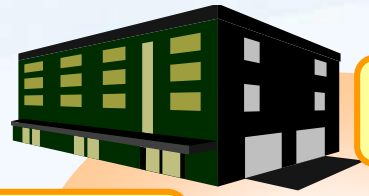
（介護保険法第115条の45第2項第5号）

平成27年の介護保険法改正で、生活支援体制整備事業という新しい事業が創られました。

高齢者の**地域における自立した日常生活の支援**及び**要介護状態となることの予防又は要介護状態等の軽減若しくは悪化の防止**に係る体制の整備、その他のこれらを促進する事業。

介護保険制度の創設から
これまでを振り返ってみましょう

２０００年に介護保険制度が創設…
介護保険制度実施前は、
わずかな『介護サービス』しかなかった…



ホーム
ヘルプ

デイ
サービス

特別養護
老人ホーム

グループ
ホーム

ショート
ステイ

老人保健
施設

在宅介護支援センター

社会福祉協議会

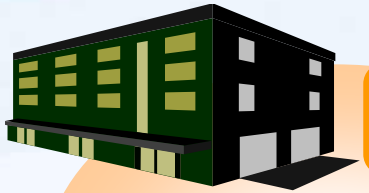
行　政

地域

家族

自宅

しかし『本人と支え合う多くの“つながり”』があった



ホーム
ヘルプ

デイ
サービス

特別養護
老人ホーム

グループ
ホーム

ショート
ステイ

老人保健
施設

在宅介護支援センター

社会福祉協議会

行政

本人の暮らし

役割

近隣づきあい

地域

有償の家事援助

自治会・町内会

商店・民生委員・
老人クラブ

支え合い・ボランティア

寄り合い

近隣の見守り

趣味仲間

配偶者

家族

自宅

気がつけば『制度・サービス』は整ったけれど…

ホーム
ヘルプ

デイ
サービス

特別養護
老人ホーム

ショート
ステイ

グループ
ホーム

老人保健
施設

居宅介護
支援

サービス付
高齢者住宅

緊急
通報

地域密着
型施設

福祉用
具貸与

介護
タクシー

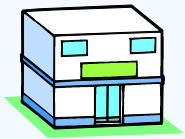
小規模多機能型居宅
介護／宅老所

訪問
看護

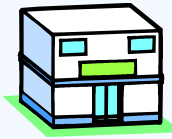
配食
サービス

訪問
入浴

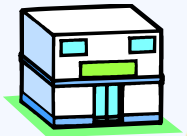
訪問
リハビリ



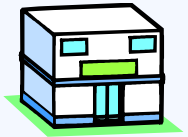
権利擁護･成年後見



地域包括支援センター



社会福祉協議会



行　政

デイサービスに通ってるのか…
茶飲みに行ってもいない
ことが多いんだ…

本人の暮らし

ヘルパーさんが来たから、毎朝の声掛けはしなくても大丈夫ね！

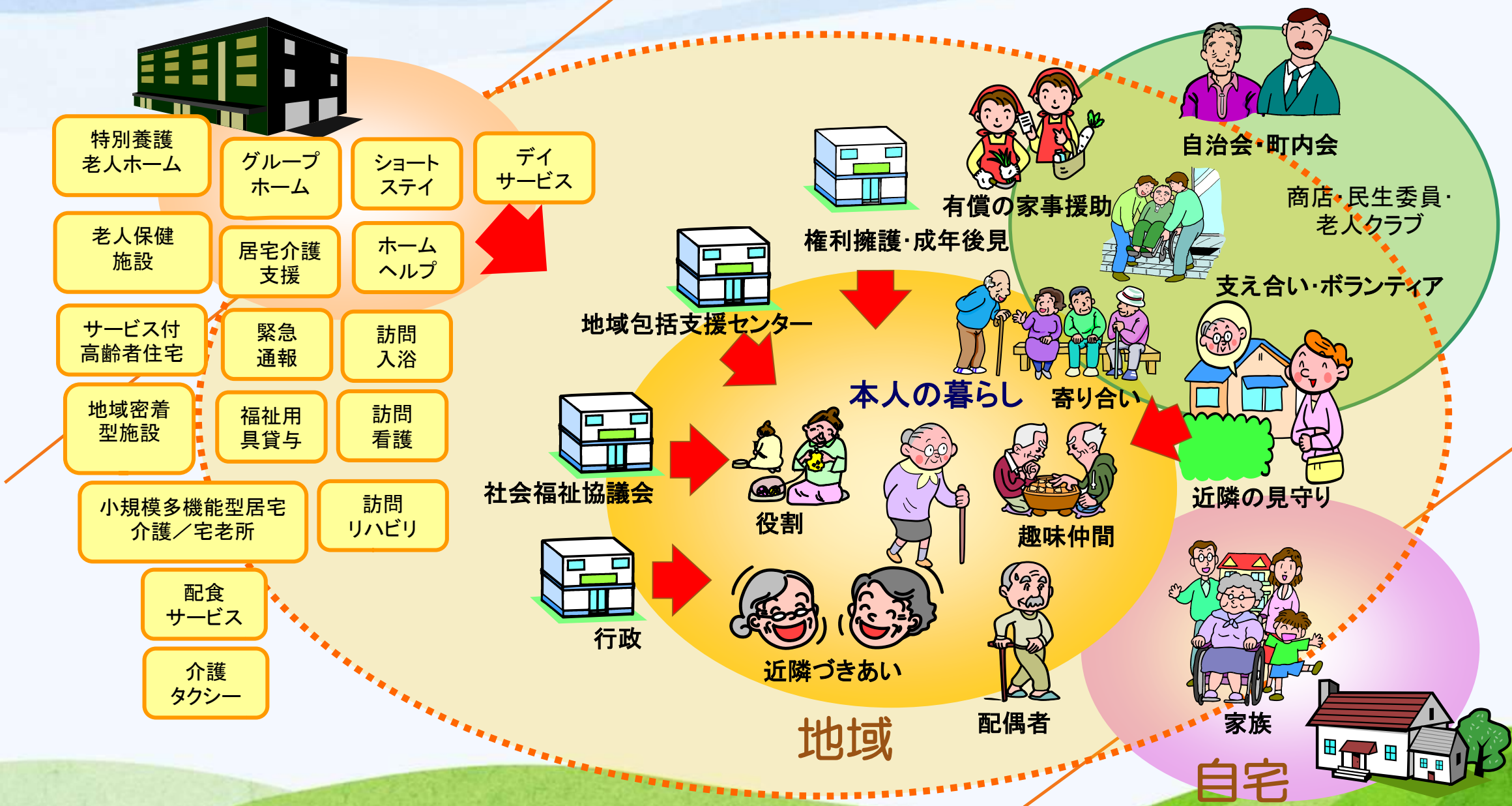
配偶者

家族

地域

自宅

今後は…住民も専門職もみんなでつながって『支え合う地域に』



介護保険制度が変わってのォ
これからは
ますます
地域での
支え合いが
必要になって
くるんじゃと

なる
ほど！

これからは
高齢化がもっとすすむ
ワシらに何ができるか
ワシらにできることを
出し合って
国・行政に
いろいろ提案することから
始めようや

でも
何から
始め
れば
いいん
じゃろう？

そのためには
まず、

協議体

をつくる
んじゃ！

オオー

引用：CLC発行「生活支援コーディネーターと協議体」

住み慣れた地域で最期まで暮らし続けるには、
介護保険サービスだけではなく、

地域ぐるみで支え合うことが大事

でも…何から始めればいいの？

地域での日々のつながりや交流は、

支え合いの基盤であり“宝物”です。

生活支援コーディネーター

登米市の日常生活圏域（①迫、②登米・東和、③中田・石越、④米山・南方、⑤豊里・津山）に生活支援コーディネーターを各１名【第二層】配置。

生活支援コーディネーターは、「地域支え合い推進員」とも呼ばれ、地域にある様々な活動を発掘し、発信する役割も持っています。

◆第一層 伊藤　修 （いとう　おさむ） 	◆迫圏域担当 高清水 智恵子 （たかしみず ちえこ） 	◆登米・東和圏域担当 鈴木　成子 （すずき　せいこ）
◆中田・石越圏域担当 小野寺　ひろ子 （おのでら ひろこ） 	◆米山・南方圏域担当 千葉　真由美 （ちば まゆみ） 	◆豊里・津山圏域担当 岩渕　由美子 （いわぶち ゆみこ）

まずは…
地域にある“お宝（人・活動）”探し！

ミニデイサービス
＝地域サロン･お茶飲み会（268行政区で実施/市内302行政区）

“お茶飲み”＋“運動”でさらに健康度ＵＰ!!

神社の社務所!?

スポーツ

お酒!?

工夫しだいで男性の参加もUP！

専門職と一緒に学んで、健康度ＵＰ！

ボランティアも一緒に楽しみ、一緒に健康！

まだまだいっぱい！地域のお宝

グラウンドゴルフ愛好会（多くの行政区にあり！）

グラウンドゴルフ仲間と一緒にお茶飲み

自分の好きなことを続けることが
つながりと長生きの秘訣

男のつどい場

自分の好きなことを続けることが つながりと長生きの秘訣

陶芸愛好会

囲碁愛好会

個人宅でのカラオケ教室

自分の好きなことを続けることが つながりと長生きの秘訣

３時間の活動の内、
ゲートボール３０分
お茶飲み２時間３０分！

移動販売も、楽しみのひとつ！

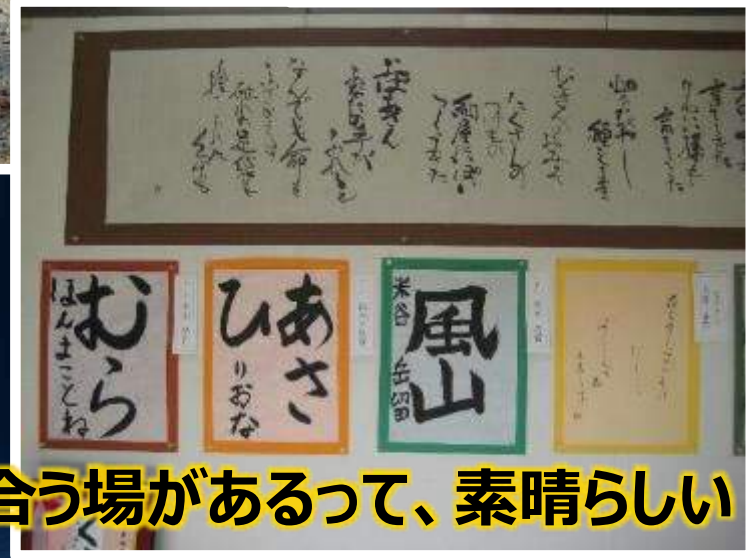
ずっと残したい･･･地域の伝統

老人クラブで朝のあいさつ運動

まごまごサークル

役割があること･･･生きがい

☆ピックアップ☆
発表の場が地域を元気に！（西舘区）



地域内に活動を見せ合う場があるって、素晴らしい！

「新しいものを作る」のではなく、

地域の宝物を活かす！

「この活動はいいね！」と**認め合う。**

地域が**元気になる機会を少しずつ広げる。**

地域にあるものを**つなげ、積み上げる**ことで、
結果的に**地域の実情に合った仕組み**ができる。

支え合いを生み出すには…

「気になる」（気にかける）

という感情が支え合いやボランティアの動機となります。

しかし、

「つながる」

を意識しないと「気になる」は生まれません。

“誰かとつながること” “つながる場づくり” を意識的に行うことが重要です。

事業をもっと広めるために･･･キャッチフレーズ

「生活支援体制整備事業」という名称は、地域の皆さんには馴染みがなく、分かりづらい名称であることから、第２回圏域協議体会議においてキャッチフレーズを決め、広く地域に周知していくこととしました。広報誌のタイトルや、生活支援コーディネーターの車にも貼っています。

登米市全域 おたがいさま ～たすけ合い･ささえ合い･おらほの宝～	迫圏域 ～地域支え愛～ おでってNet	登米・東和圏域 ～明日も元気で～ おみようにち♥
中田・石越圏域 ～支え合い～ かわりねすか	米山・南方圏域 ～人・心・地域をひとつに～ よつぺす	豊里・津山圏域 ～人と人とをつなぐ～ ゆいっこ

モデル活動指定事業の取り組み

第一期：平成28年10月1日～平成30年3月31日（1年6ヵ月）
第二期：平成29年10月1日～平成31年3月31日（1年6ヵ月）
※どちらも1町域に1団体の指定

モデル活動のねらい

１．モデル活動実践地区の活性化

活動を通して新たなつながりや、地区内の活性化・活発化につながります！

２．他の地域への波及効果

モデル活動の報告会を通じて、「これならうちの行政区でもできる！」「活動のヒント」「はじめの一歩」へとつながる！

第一期モデル活動ピックアップ!!

～年を取っても役割があるって大切なこと～

迫町：本田行政区

来るべき超高齢地域で起こる耕作放棄を、集団での協働作業で解決できないかとの思いでスタート。現在は、高齢者の貴重な知識と経験をもとに芋・トウモロコシ・大根・白菜を栽培。作業の労働量ごとにポイントを付け収穫物を公平に分配。

（例）１Ｐで白菜3個など

子どもたちの参加は、学校だけでは得られない貴重な「知の体験」にもなっています。

Point

足腰が痛くても、「監督」として畑に来てもらうだけでポイントがもらえる。
持ってる知恵と経験も大きな地域の財産だ。

～帰ってくる場所がある！本田区盆踊り～

迫町：本田行政区

地域の方はもちろん、本田に帰省してきた方、昔、本田に住んでいた方が共に楽しむ盆踊り大会は、地域の方々の大切な季節の行事です。
毎年趣向を凝らしたテーマで来場者が一丸となり創り上げている祭りです。
地区の高齢者、子どもたちはもちろん、引きこもりがちの地域の若者（祭りの司会を頼み、地域とのつながりを切らないような配慮があります。）もこの日ばかりは張り切って祭りに参加します。

看板や出店も住民総出で準備・運営。
子供たちも毎年楽しみにしています。

～毎月11日は防災の日・地域を守るのは自らの力で～

迫町：本田行政区

地域毎月１１日は「本田防災の日」「安全黄旗の日」ということで、各世帯では道路から見える玄関や門口に黄旗を掲揚。
３．１１の震災の記憶を忘れることなく、自助の意識を強く持ってもらえるようにと行っています。

災害時の地域の支え合い活動は、「水・ガス・電気」などのライフラインと同様に大切なものです。

この活動に参加することが地域の支え合いの第一歩でもあります。

班長が大きい旗を掲げ、班内を確認し、集会所に集まります。
一人でも確認の取れない家には救助にあたる仕組み。避難完了時には家の前に小旗を掲げる。

～地域に気軽に集える場を！にこっとすっぺ～す～

津山町：横山８区行政区

横山８区は世帯数４３世帯、人口１２９人の小さい行政区です。
地域内に気軽に寄れる場所の少ないことを懸念した民生委員さんが月に２回、自宅を開放したお茶飲み場「にこっとすっぺ～す」を行っております。

今年度４月、登米市社会福祉協議会では市から委託を受け、『生活支援体制整備事業』がスタートしました。その中の「モデル活動指定事業」を、津山町では【横山８区】にお願いしました。この『にこっとすっぺーす』の活動を登米市内の多くの方に知っていただき、このような集いの場が少しでも増えればと思っています。

～登米市社会福祉協議会 豊里・津山圏域 生活支援コーディネーター 岩渕由美子（〒070-2011-0053）～

～いつもの行事も工夫次第で生まれるつながり～

南方町：新高石行政区

防災訓練併催大運動会！

どの行政区でも行っている防災訓練。それを運動会方式にミックスさせることで、子供からお年寄りまでが真剣に、かつ楽しく参加することができます。
近所づきあい疎遠の解消にも世代間交流機会を多く設け、つながりづくりに努めています。

～無くすことは簡単、続けることでつながる絆～

豊里町：東二ツ屋行政区

２１年間続いている「ふれあい人間ばん馬大会」昔は、稲刈りの終わった田んぼで行っていましたが、時代の流れと共に形を変えつつも、世代間の交流・地域のつながりを保つために大事な行事となっています。

～伝統を次世代につなぐ～

豊里町：東二ツ屋行政区

二ツ屋だけで作られている郷土料理

『けの汁』

毎年一月中旬になると、大根やジャガイモなどの野菜を主な材料とするちょっと珍しい汁物料理が多くの家庭の食卓に上がります。江戸時代後期に地区に移り住んだ盛岡藩の領民が始めたとされる固有の食習慣で、小正月の風習として今に受け継がれています。けの汁は肉や魚を使わない精進料理。二ツ屋地区では「カユの汁」とも呼ばれ、昔あった飢饉を思い出し、当時の辛苦を忘れぬため米飯をやめ、正月１６日だけカユと汁を食べ昔の苦を偲ぶ習慣が今に残ったことが語源とも言われています。このような**伝統を紡ぐことが、高齢者の生きがいや役割づくり**につながります。

～きたれ！男の居場所！仲間づくりは地域づくり！～

米山町：男性ボランティア団体

仕事を退職した男性は、目的を見失い家に籠りっきりになる…家に籠ってばかりではすぐに体も弱まって…
それではダメだ！と、一年発起！
仲間たちを誘って団体を設立。地域内のボランティア活動を行いながら、生きがいと健康づくりを目的にしています。
釣りっこ、パークゴルフ、ダンスなど

ピンピンしながら楽しく生きて、

ある日**コロリ**といっちゃった。

そんな夢みたいな人生になればと思っています。

～特技を活かして地域のお助け隊に！～

米山町：男性ボランティア団体

退職された方には職人さんや特技を持った方がたくさんいます。
障子張り、駐車場のライン引き、幼稚園の除草作業などなど…
将来的に

「地域の困りごと
お助け隊」

として活動していきたいと考えています。

～いきいきクラブ設置で地域活性化～

石越町：新道行政区

モデル指定をきっかけに地域内の高齢者を支える会「いきいきクラブ」（行政区役員、民生委員、長寿会、ミニデイボランティア）を設置。
①行政区内を北と南に分け、見守りルートを確立。（地域のボランティアが見守り）
②試行的に費用弁償型ボランティアを運用。
（買い物やちょっとしたことのお手伝い）

～１枚のチケットがおたがいの心の負担を軽減～

石越町：新道行政区

地域内の移動困難な高齢者を「おたがいさま」の精神で買い物や、通院の送迎を行っていたところ、**毎回“お礼だから”と、タクシー代以上のお金を渡されていました。**
いきいきクラブに相談したところ、そのおばあさんに『無料乗車券』を渡し、**「今度からはお金の代わりに乗車券を渡して下さいね。」とお願い**し、おばあさん、受け取っていたボランティアさんの双方の負担がなくなりました。ボランティアさんにはいきいきクラブからガソリン代実費程度の謝金が支払われています。現在は利用者は１名ですが、今後移動困難者が増えてきた時にどうするか？が、課題です。

～話し合いから生まれた新たな活動～

石越町：新道行政区

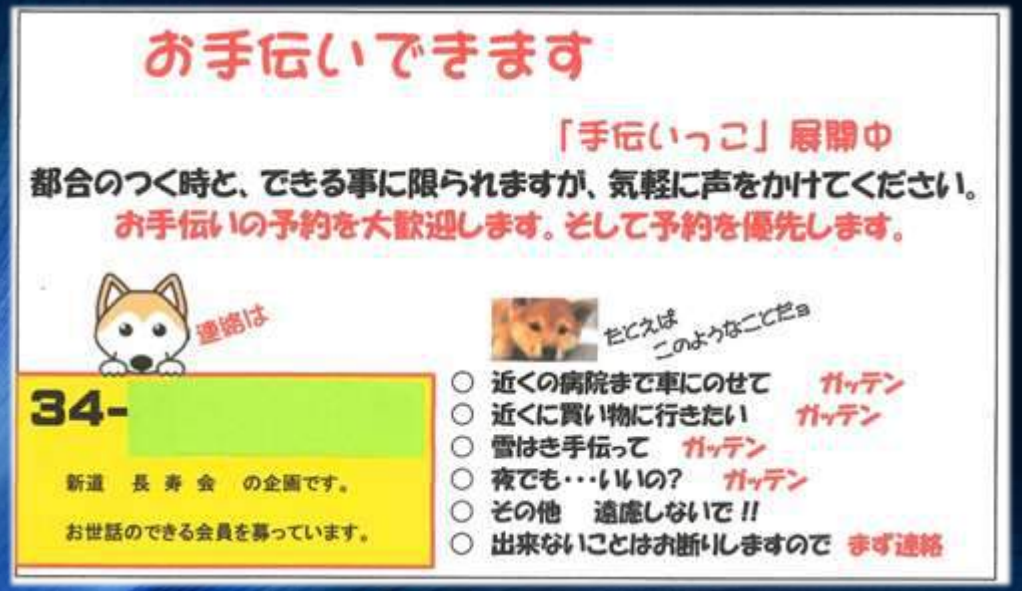
カラオケ好きな方が多い新道行政区。住民の要望でカラオケを地区で購入。ミニデイとは別に定例に集まる機会が増えました。

集会所まで来ることができない…でも、参加したい。そんな高齢者のお宅を訪問し、一緒にお茶飲みをする通称「サミット」（今後実施）

～地区が元気になると老人会も元気に！～

石越町：新道行政区

年を取っても楽しい活動をしよう！を合言葉に新道長寿会主催で実施。男性陣が奥様方や、地域の女性を招待し手作り料理でおもてなし♪地域内の交流と新たな楽しみや、役割づくりにつなげている。また、会員相互の助け合い「手伝いっこ」も展開中！



～その手をちょっとだけ伸ばす～

登米町：鉄西行政区

私たちの生活支援の基本は、特別に何かをするのではなくこれまでと変わらない町内会活動、お茶のみ会の事業、防災会訓練などを行い、その手をちょっとだけ伸ばし、お互いに支え合うことが安全で安心な暮らしができる地域づくりと思います。

いつもは区長便に出しているチラシも…一軒、一軒声掛けして参加を呼び掛けたところ、これまで地区行事に参加したことのなかった高齢夫婦が、「誘ってくれてありがとう。」と、涙を流して喜び、初めて参加されました。

活動や意識を広げるために①
地域福祉フォーラムで活動発表

他の地区のやる気（負けていられない！）と、**これでいいんだ！**を生み出す。
社協・行政が必要性を唱えるより同じ目線の住民の声は受け入れやすい!?この日の夜に、早速地域で集まったところもあったようです。

活動や意識を広げるために②
広報誌「おたがいさま」発行

全世帯向けに発行。隣の行政区ではこんなことやっているのか、うちでもミニデイ始めてみようか、など「活動を見える化」することにより、地域のやる気スイッチをON！

地域の新しい取り組みは、
全て“話し合いの場”から
生まれています

広げよう

地域の支え合いサイクル

まずは話し合い。
ずっと住み続けられる地域にはどんな活動が必要か？
集まって話し合うことから生まれます。

話し合い

ご近所さんでないと気づかない、
ちょっとした変化への気づき

気づき

活　動

活動の中で、様々な課題への気づきにつながります。問題解決に向けた次の展開がみえてきます。

活動することで、新たなつながりや活動者の生きがい創出、地域の活性化につながります。

自分もみんなも

「支援される立場に必ずなる！」

５年後、１０年後、２０年後の

地域の将来像をみつめ、

「自分だったら、

〇〇のような助けがほしいな・・・」

を、考えて今のうちから準備することが大切です。

ご清聴
ありがとうございました